



# 学校だより

横浜市立六つ川台小学校

5月号

平成31年4月26日

URL:<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>  
E-mail:[y3mutukd@edu.city.yokohama.jp](mailto:y3mutukd@edu.city.yokohama.jp)

## 知的好奇心

校長 滝本 俊一

草木の緑がまぶしく映える季節になりました。朝、正門で登校してくる子どもたちを出迎えていると、「おはようございます」と元気にあいさつをする子、下を見ながら小さな声で挨拶する子など、子どもたちの様子は様々です。いつも元気に挨拶をする子が小さな声であいさつを返すと、家で何かあったのかな？友達とケンカでもしたのかな？と気になります。しかし、気になっていた子も、休み時間には友達と元気に遊んでいる姿を見かけるとホッとします。休み時間の子どもたちは、校庭で元気に走り回る子もいれば、草むらで虫探しに夢中になっている子、教室で友達とおしゃべりしている子など過ごし方は様々です。ある日、何かをじっと見つめている子どもたちがいました。その視線の先には小さなダンゴムシがいました。まだ生まれたばかりの赤ちゃんのようで、体長が1ミリ程度の小さなダンゴムシです。ダンゴムシやバッタなどの生き物が大好きな子どもはたくさんいます（もちろん苦手な子どももいますが…）。

さて、子どもたちがとても楽しそうにダンゴムシと触れ合う姿に刺激され、私自身も改めてダンゴムシについて調べたことがあります。

ダンゴムシは、名前に「虫」とつきますが、昆虫ではありません。昆虫とは、体が頭・胸・腹に分かれていて、脚は六本です。それに対してダンゴムシは脚が十四本あり、腹は六つに分かれています。ダンゴムシはカニやエビの仲間になります。このように「甲殻類の仲間であり、毒などを持っていないダンゴムシは、災害時の非常食として利用できる。加熱するとポップコーンのように弾ける。弾けきると食べごろ」（Wikipediaより）だそうです。ただし味は「美味とはいいがたい」とか。また、昆虫ではないので、成長の仕方も昆虫とは違って脱皮を繰り返して成長します。脱皮した抜け殻は貴重なカルシウム源としてダンゴムシ自身が食べてしまいます。だから、蟬や蛇のように抜け殻を見かけることがないのです。子どもの頃、ダンゴムシを迷路で競争させて遊んだ経験がある方もいらっしゃるのではないでしょうか。ダンゴムシは短い距離で壁にぶつかり、ぶつかるたびに左右交互に向きを変えて動くという性質があります。この性質から、ダンゴムシは迷路が得意と言われているのです。

このように少し調べてみただけでも新しい発見が次々とあり、興味を引かれます。興味が湧くと「これはなぜだろう？」「もっと調べてみたい」となり、もっと知りたい、学びたいという意欲に繋がります。

確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、これらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力を育てることが必要です。このような力を身につけるには、主体的に学習に取り組む態度を養うことが大切になります。この主体的に学習に取り組む態度を養うためには、子どもたちの学習意欲を高めることが大きなポイントになります。「不思議だな」「どうなっているのかな」「おもしろそうだな」など、子どもたちの知的好奇心を刺激し、もっと調べたい、もっと学びたいという意欲を高める学習活動を目指していきたいと思えます。今月もよろしく願いいたします。